

2025 年度大学院入学試験（専門科目）出題意図

科目名	行政法
問題	
問題 1 行政法学とは、憲法に基づく行政権限の民主主義的授権と法治主義的統制のあり方を研究する学問であるといわれている。その意義につき、下記のすべての文言を用いて述べよ。 立法権 行政権 司法権 民主主義 権利保護 法律による行政の原理 実質的法治主義 問題 2 住民基本台帳法上の住民情報の取扱いにつき、そのもっとも重要かつ基本であると考えられることを、例をあげつつ述べよ。	
出題意図	
問題 1 日本国憲法が規定した立法権によって制定される実定法を行政権が受けとって実施しつつ、そこで発生したトラブルを、国民の権利侵害委として法解釈上の争いとして司法権が判断し、それがふたたび行政権、場合によっては立法権へと差し戻されてブラッシュアップされていく。そこでは、単に国会が制定した法律にさえ適合すれば適法とされるわけではなく、その先には、「法律の規定」を超えて「法」に適合することが求められている。行政法特有のテクニカルタームの個々の理解に止まらず、これらの流れを大枠として理解しているかどうかを問う。 問題 2 個人情報が見えないかたちで利用されている現代において、その最大の保有者である行政権がどのような法的枠組みのもとで個人情報を取り扱わなければならないのかについて、その理解を問う。具体例としては、実際に各自治体が行っている住民基本台帳法上の個人情報の国等への外部提供についての認識を問うものである。	